

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第237号 (2025. 8. 31-2025. 9. 7)

- ◆ 参加者：クイスケ、西沢葉火、岩谷浩司、石原とつき、しまねこくん、空野つみぎ、宮坂葵哲、ひいらぎ、蔭一郎、瀬戸さゆこ、雷らじ、天然石アクセサリー、笹地静恵、ゆうたま、saulo
守宮、山田真佐明、リンネリンク、榎田ブシヨネ（カツパン半島）、アリタ別館、片羽雲雀、TAJSU、佐井杜有、中村うおなみ、非常口ドット、霧雨魔理沙、鈴木正巳、季川詩音、小柳都、石川聡、西脇祥貴、汐田大輝、江口ちかる、カオルル、塩の司厨長、不思議な話のアイン、水の眠り、アハト、クラツチ、岡村知昭、しろとも、まじけい、古城えつ、冬野志奈、しんいち、*najiri*、夜船モモ、都まなつ、なざわご、リコシエ、葉、山羊の頭、*suzune suzaki*、ひろたあいこ、ナル、千春、東ころ、落ちる星々、範善、紺野水辺、名犬、ぼち、月波与生（ハ一名）

◆川柳・俳句

台本は流しそめん排尿痛 クイスケ
年老いてなお中指立てるサロメ クイスケ
怪人の田舎の露出癖占い クイスケ
エモうなぎスタンプラリー未亡人 クイスケ
不条理コツツンコツツンツバキの実 石川聡
笑い声かたちにすれば青瓢 石川聡
枯木に夜がぶらさがった女を抱く 石原とつき
怪獣に罪はないあるとすれば子守唄 石原とつき
近所にトイレができると森氏結婚嬢Ⅱ人魚と交わる 石原とつき
八月のエンドロールがクソ長い しまねこくん
ごめんって言へない方の案山子だな しまねこくん

左から四十五度を秋めかす しまねこくん
秋めいてパンツは干さずともパンツ しまねこくん
秋桜地獄に耳の数が増ゆ しまねこくん
時計より先に尿意で秋の朝 しまねこくん
脱ぎすぎた金魚のためのバリケード sofio 守宮
ライダーはみな五十歳同窓会 sofio 守宮
色街にやつと宿とり風の盆 鈴木正巳
包みかね土産の月を取りこぼす 鈴木正巳
ケルン積む軍手や朝の露しみる 鈴木正巳
持ち物にあの子を足した落葉樹 空野つみき
余所者はテクノカットで温かい 空野つみき
献立に桜のゼリー 念写部屋 空野つみき
楽園をねだる首から上がらない 空野つみき
流れ星すったもんだで白塗りで 江口ちかる
流れ星奇数がちなる街に住む 江口ちかる
(ここに季語) 停める車のない体 雷
似顔絵を見た髭を剃る 雷
からみあう吐息のちかさ月の舟 都まなつ
この広い野原が全て処刑場 汐田大輝
適切に悪意を混ぜるミルクティー 汐田大輝
古池に沈む山椒魚のトラウマ 汐田大輝
おじさんの床屋ごっこへ天気雨 岡村知昭
ミサイルが大河ドラマに着弾す アイン
綾子忌や香水シユツと纏う句よ 瀬戸さゆい
泥酔の真昼かすかに鹿の声 片羽雲雀
マジンガーZ乗り捨て大花野 TATSU
幕下の兄弟子として奢らない 山田真佐明
カッコいいセリフ強制される男 宮坂俊哲
灰色の象はきえゆくおだやかに ゆうたま

*

テイアーモが訳せないルナ 西沢葉火

色のなき風誘ふ色の鮮やかさ ひいらぎ

終活のあとのトンカツかぶりつき 笛地静恵

朝焼に秋づく人魚たちの鱗 蔭一郎

正体の蜂蜜漬けを出すなんて 佐井杜有

今夜から寝息がひとつ増えた部屋 非常ロドット

稲刈りの音は昔を思い出す 霧雨魔理沙

俺たちの物菜選はいつなのか 季川詩音

犯罪に風呂を貸す中島みゆき 西脇祥貴

朝暁の風すべりこむ始発駅 カオルル

折り畳み式の終末メロディアン 塩の司厨長

指先で衣一枚濡らす陰 アハト

アイドルのパフォ見ながら過ごす夜 クラッチ

初秋(はつあき)の油污れが懐かしい しるとも

サザエさんのやうに秋刀魚焼きし頃 冬野志奈

悪意ある羊が夢へ入り込む しんいち

眠れないアタシ星ごと投稿し Rajini

熱血な夏の残像残暑かな なさわこ

扇風機遠くの店へ行きにけり 葉

遠くから近づいてくる雨音に 山羊の頭

最低限きらいな人がいなくなる 鈴木雀

シリカゲル食べられませんかあなたには ひろうたあいこ

汗だくで買いに行きたる宝くじの日 まどけい

すくと枯るひまわり弁慶夏の果て ナル

嬉しくて無限花火を抱きしめる 千春

推し変をして美しい銀木犀 東ころろ

辮髪をあげたりさげたりアン・ドウ・トロワ 落ちる星々

時流れ友も変わりに独りかな 範善

秋めいて撫でる襟足の髪 紺野水辺

*

ドラえもん去って魔太郎になるのび太 月波与生

◆ 短歌

夕暮れに 独り立ち呑み Meeting 自分探しに 灯と涙
岩谷浩司

夜もすがら淋しさ数えて朝を待つ 秋夜 リンネリンク
溶けちゃった土産のチョコを 「気候」と持ち帰った」と笑
っている君 榎田ブシヨネ

囲まれて眠りたいもの何ですか 紙の本と推し達の声 ア
リ夕別館

立ち尽くす夜の棧橋白む雲 波なき湖面に揺れる満月 中
村うおなみ

好きですか？ 文系女子は指さして 真面目な顔であれば月
です 小柳都

ため息のたつたひとつに刺殺され鯨の息継ぎだったとして
も 水の眠り

新しい扉の鍵が見つかれば静かに次をノックするだけ 古
城えつ

夜の渦少ない光を集めてるチャリを漕ぐ膝力を入れる リ
コシエ

◆ 詩・短文

ザクザク ザクザク 心臓の小間切れ (天然石アクセサリ
—kiki's)

夜を泳ぐなら背鰭は黄色

あなたに見つけてもらえるように

和らいだ寂しさにつけこんで

ようやく明日に辿り着く (夜船 モモ)

◆作品評から

秋めいてパンツは干さずともパンツ　しまねこくん

～身捨つるほどのパンツはありや(名犬　ぼち)

カッコいいセリフ強制されるBR　宮坂麥哲

～カッコいいセリフを言わなければならぬという雰囲気。でも、言ったら言ったで気持ちが悪く思われたりするかもしれない。だからこそ一つひとつの言葉に品性が問われる。(季川詩音)

秋桜地獄に耳の数が増ゆ　しまねこくん

～秋桜という「調和」や「優美」などの花言葉を持つ花と、地獄の組み合わせにドキリとしました。花が増えるほど、その地獄に苦しむ存在の悲鳴が増え、その声に気づく人達も増えていくのでしょうか…。(アリタ別館)

古池に沈む山椒魚のトラウマ　汐田大輝

～古池では蛙(かわず)ばかりが脚光を浴び、山椒魚はかえりみられず。悪意のミルクティーは、美味しそうな苺川柳そのもの。(石川聡)

下ネタを言ひ損なつて虫の音　しまねこくん

～下ネタを言うタイミングは難しい。ぼくは言い損なつてしまい、その後イヤな沈黙が続きやけに虫の音が騒がしい。きつとこの下ネタを界限でひけらかすことはもう無い。(月波与生)

人格を一系列に並べて殴る　アイン

～「殴る」とはいまどきの書き方だと思つ。手慣れた人

は（人格を縦に並べて殴られる」と書くだろう。定型だしリズムもいいし。でも殴るのだ。そこに作者の主張があるのだ。（月波与生）

団地妻は（ここで深呼吸）みずでっぼう 石原とつき

〜団地妻というワードに「ムムム」となるのはにつかつロマンポルノ世代だけかも知れない。そういう意味で（ここで深呼吸）は正しい。みな高齢になったから。（月波与生）

時計より先に尿意で秋の朝 しまねこくん

〜アラームの音よりも先に尿意で起きる。あるあるなのかもしれない。「もうアラームいらんやんけ。」となるのに、またアラームをかけて、また尿意で起きる。これの繰り返し。（季川詩音）

チセキレイチヤチチチチと鳴チチチく 季川詩音

〜こんな句も書けるのかと素直に驚いた。背伸びして難解にならず下手な模倣をせず自分の感性を信じてこれからも作句を続けてほしい。（月波与生）

輪郭のあやしい穴をたどるたび会田誠のドロップキック水の眠り

〜着地がキレイな作者の歌にしては「ドロップキック」で終わる本作の振りは面白い。「あやしい穴」も得体があやしくていい。（月波与生）

メルヘンは滅ばない、一口あげる 空野つみき

〜「一口あげる」の飛躍がいいのだけど読み手は「」に意図を感じて警戒する。なくてもいいのでは。（月波与生）

怪獣に罪はないあるとすれば子守唄 石原とつき

　　～子守唄の罪とはいったい何。慰め？美しさ？癒し？いやいや、それだけではない。最大の罪は、怪獣を呼び覚ましてしまうこと。自分に潜む内なる怪獣が、目覚めてしまうこと。子守唄によって目覚めた、私という怪獣。もう誰も、止められない。(岡村知昭)

買ったときから外れてる宝くじ 宮坂変哲

　　～宝くじのみならず、ギャンブルは買った瞬間に「ハズレ」です。「そんな気がする」は正しい。でも、買ったのです。自分が買ったのは例外かもしれない。そんな気がする。買ったから、そんな気がするのです。外れたら？また買うだけ。今度は違う。そんな気がするから。(岡村知昭)

終活のあとのトンカツかぶりつき 笛地静恵

　　～何かをする前にかぶりついたんじやなくて、終えたあとにかぶりつく。なかなか良いですね。しかも、歳を重ねるにつれて肉類はキツくなると言いますが、ここでトンカツとは勢いが良いですね。(季川詩音)

俺たちの物業選はいつなのか 季川詩音

　　～なんか楽しい句ですね！ 物業＋戦じやなくて物業＋選なのがいいな～(石川聡)